

調査結果概要版

2012年7月5日

東京都社会福祉協議会

福祉施設でのインターンシップ 6割以上の知的障害特別支援学校が「生徒の働く意欲が向上」と回答

東京都社会福祉協議会で行っている「西多摩地域における福祉職場障害者雇用推進プロジェクト」では、福祉職場での障害者のインターンシップの推進に取り組んでいます。その中で、インターンシップで生徒を送出す都内の知的障害特別支援学校高等部の就業促進研究協議会に所属する学校の進路指導担当に対し、送出しの実態と課題について調査を行いました。

1 調査のあらまし

目的	都内知的障害特別支援学校高等部における障害者のインターンシップの実態を明らかにするとともに、学生の送り出しから体験後のフォローも含め、福祉職場でのインターンシップの特徴や配慮すべき点などについて明らかにする。
対象	都内知的特別支援学校高等部就業促進研究協議会の所属学校 進路指導担当（26か所）
調査期間	2012年4月19日（木）～5月11日（金）
方法	メールによる送付、メール又はFAXによる回収
回収状況	21か所 / 26か所（回収率 80.8%）

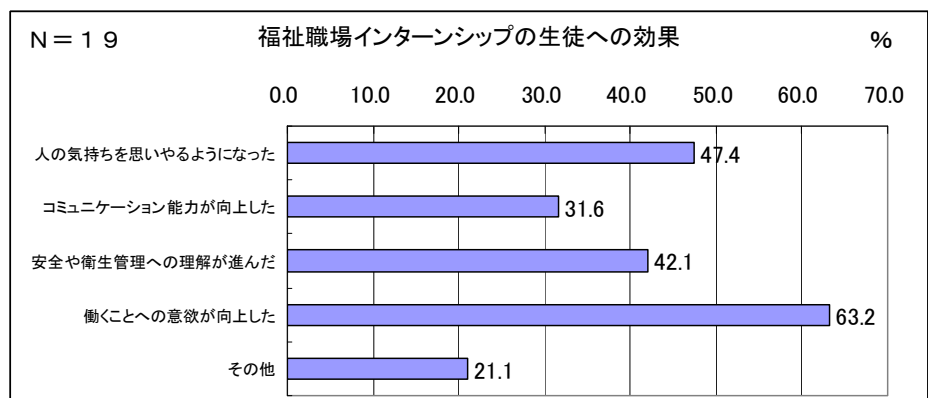
2 調査結果概要

ポイント1 都内9割の知的障害特別支援学校高等部で福祉職場へのインターンシップを実施している

都内の9割の知的障害特別支援学校高等部が福祉職場にインターンシップの送出しを行っています。送出し先は「高齢者施設」85.7%、「保育所」52.4%、「障害者支援施設」38.1%となっています。「児童養護施設」の回答はありませんでした。

ポイント2 知的障害特別支援学校高等部の6割以上が福祉職場のインターンシップで「働くことへの意欲が向上した」と回答している

福祉職場でインターンシップを体験した生徒に見られる特徴的な効果として63.2%の特別支援学校が「働くことへの意欲が向上した」と回答しています。また、47.4%



が「人の気持ちを思いやるようになった」、42.1%が「安全や衛生管理への理解が進んだ」と回答しています。

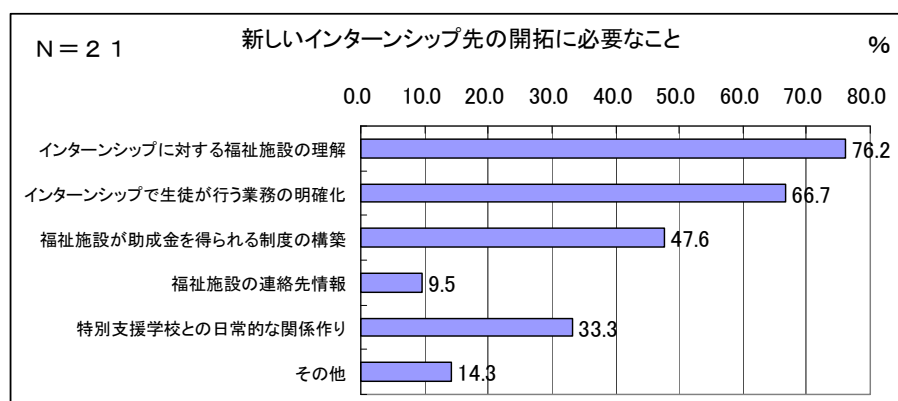
ポイント3 インターンシップの事前打合せでは①本人の障害特性、②利用者との関わり、③インターンシップの目的に沿った業務内容の3つを確認している

特別支援学校では生徒をインターンシップとして福祉職場に送出す際に、以上の3つを確認しています。①については「生徒の障害種別や障害特性などを伝え、学校・施設がお互いに配慮する点などを確認する」、②では「間接業務であっても、施設内で利用者との関わりがあるので、その部分の留意事項等をより丁寧に確認している」、③では「インターンシップの趣旨をご理解いただき、生徒に業務を明確に与えて頂くようお願いしている」といった内容の回答が挙がっています。

ポイント4 新たなインターンシップ先の開拓にあたり、「インターンシップに対する福祉施設の理解」に続き、7割弱が「生徒の業務の明確化」と回答している

新たなインターンシップ先を開拓するためには「インターンシップに対する福祉施設の理解」が多くあげられました。

一方で、「生徒が行う業務の明確化」も66.7%と半数以上の特別支援学校が必要と回答しています。



また、別の項目でも「施策に求めたいこと」として「福祉施設で実習生を指導するスタッフの配置・明確化」が挙がっています。具体的には「福祉施設で働く方々は大変忙しく、実習生を指導するのはなかなか困難な状況と思われる。障害者を指導する指導員のような立場の人がいればよいのではないかと考える」というような意見が寄せられています。

※調査結果の詳しい報告は、以下のページを参照下さい。

<http://www.tcs.w.tvac.or.jp/pdf/chousa/20120705findings.pdf>

<本件に関するお問合せ> -----

162-8953 新宿区神楽河岸1-1
東京都社会福祉協議会 総務部企画担当
電話：03-3268-7171
FAX：03-3268-7433